

〔共同研究：「大学生」に関する総合的研究〕

新入生実態アンケート調査の分析（1）

「フェイス」および「大学（本学）の選択理由・入学後の期待等」

木 下 栄 二

1. はじめに

立教大学総長の大橋栄五は、大学の真の危機とは、「学生の質の変化や大学教育の役割変化といったものに大学自身が十分に対応し得ないこと」（大橋、2010）だと述べる。それでは、「学生の質の変化」はどう捉えたらよいのだろうか。我々の共同研究では、現代大学生の特徴を把握するために独自の調査¹⁾を実施しているほか、大学内の諸機関が実施している既存調査の再検討・再活用という課題にも取り組んでいる。本学に限定しても、授業評価をはじめ、大学生の特徴や、大学教育のあり方を考えるために重要と思われる調査が各種実施されている²⁾。既存調査データを最大限活用することも社会調査の大切な課題である。

特に、本学が毎年実施している新入生実態アンケート調査は、全新生を対象とし、回収率もきわめて高い³⁾。また、基本的に同一の設問であるため、経年変化の分析にも適している（設問内容は本論末尾に掲載した2010年度調査票を参照）。かつては毎年冊子で配布されていたことを覚えている方もおられよう⁴⁾。この調査は、2004年度データよりエクセル形式でも対応可能となり、分析の汎用性が高まった。我々はこのデータを、統計解析パッケージSPSSに読み込ませ、さらに各年度のデータを結合させて、一つのデータファイルを作成した。この調査がより有効に活用されることを願って、今号より数回に分けて、若干の分析結果を紹介する。今回は設問1-16（「フェイス」および「大学（本学）の選択理由・入学後の期待等」）について、主に経年変化を概観する。なお、今回は高校生活や入試関連の設問

1) 大学生のキャリア形成や就職活動等をテーマに、共同研究者の一人である岩田考が近々に報告する予定である。

2) 散見する限りでも、学生生活委員会による学生生活実態アンケート調査、社会学部以外の各学部が1年生に実施している調査など、多くの調査が実施されている。

3) 各年度の回収率（データ上のケース数／入学者数（2次手続き完了者数、入試課資料））は、2004年度98.1%、2005年度98.6%、2006年度98.2%、2007年度98.8%、2008年度98.6%、2009年度92.8%、2010年度88.9%である。ここ2年間の回収率の低下には、担当者がフェイス項目に不備のあるデータを事前に除外していることも関係しており、必ずしも未提出の新入生の増加がどうかは現時点では判断できない。

4) 筆者も、たまたま1995年度新入生実態調査アンケート報告書と2000年度新入生実態調査アンケート報告書を保存している。設問項目や選択肢が変わっている部分も多く、完全な比較はできないが、いくつか比較可能な部分については注のなかで紹介したい。

が多いため、留学生は分析から除外した。また、新入生の自己申告であるため、若干のケースでは未記入や誤記入等もある。未記入や単純な誤記入は分析から除外したが、論理的に疑問のある誤記入等⁵⁾は判別が難しく、そのままの状態であることをご承知願いたい。

なお、この調査の設問項目は多岐にわたっている。数回に分けても、全てを紹介しきることはできない。さらに、目的に応じて限定したデータ（たとえば、特定学部や特定の入試制度での入学生だけのデータ等）での、詳細な分析が必要なこともあろう。我々は、このような誌上での報告だけがデータ利用の形とは考えていない。むしろ、ここでの分析を一例として「このような分析はできないか」というリクエストや、自らの手で直接データを分析したいという希望が各学部学科や学内各所管から寄せられることを期待している⁶⁾。

収集したデータの未活用は、社会調査の立場からみれば倫理違反である。また、情報を使いこなせる組織こそが強い組織ではないだろうか。この小論が、新入生実態アンケート調査をはじめとする様々な既存調査が、多様な形で活用される呼び水になれば幸いである。

2. 基本的な属性には変化はみられるのか？（フェイス（設問1－8））

①性別、出身高校、高校での課程、現役・既卒

性別（設問2）、出身高校（設問3）、高校での課程（設問6）には、経年での大きな変化は見られない。紙面の都合上図表は略すが、性別は、おおむね男性65%前後、女性35%前後である。出身高校の区分も、都道府県立が6割弱、私立が4割弱である。また、高校での課程は総合学科の出身者が若干増加傾向にあるが、9割弱が普通科の出身である。

現役・既卒（設問5）では、2004年度は85.2%だった現役での入学者が、2006年度以降、90%台で推移している⁷⁾。近年の新入生の9割以上が入学直前まで高校生だったということになる（表1）。

②入試制度別入学者の推移

入試制度別入学者の比率（設問4）は、この7年間でかなり変化している（表2）。「一般

5) 誤記入には、単純エラーと論理エラーがある。単純エラーは存在しない選択肢を選択する（たとえば性別に関して、1. 男性、2. 女性という二つの選択肢しかないのに3と4とか回答する場合など）もので発見が容易であるが、論理エラーはある設問で1と回答をした以上、別の設問で5という回答はありえないのではないか（たとえば指定校推薦で入学した学生が、本学志望時期を高校卒業後と回答する場合など）という類のものである。我々のデータでは、単純エラーはすべて欠損値として分析から除外したが、論理エラーについてはまだ未検討の状態である。

6) 自治体による市民意識調査の実態を調査した大谷信介（大谷、2002）は、多くの自治体職員がデータを紙媒体に印刷された数字のこのことと勘違いしていること、調査を担当した部局以外はその調査のことを知らないという縦割りの状況を批判し、<やっただけの調査>から<分析できる調査>への転換を主張している。本学のような組織においても、データ分析能力の向上、データの共有化は重要な課題であろう。

7) 1995年度と2000年度新入生実態調査アンケート報告書を見ると、1995年度の現役比率は65.2%であったが、2000年度では85.2%になっている。トレンドとしての現役比率の増大は、90年代後半に進んだようである。

表1. 現役・既卒

		現役・既卒			合計
		現役	既卒(1年)	既卒(2年以上)	
実施 年度	2004年度	1447 85.2%	203 11.9%	49 2.9%	1699 100.0%
	2005年度	1490 88.4%	163 9.7%	33 2.0%	1686 100.0%
	2006年度	1497 91.2%	111 6.8%	33 2.0%	1641 100.0%
	2007年度	1463 93.3%	84 5.4%	21 1.3%	1568 100.0%
	2008年度	1514 91.0%	119 7.2%	30 1.8%	1663 100.0%
	2009年度	1551 92.9%	96 5.8%	22 1.3%	1669 100.0%
	2010年度	1391 91.8%	95 6.3%	29 1.9%	1515 100.0%
	合計	10353 90.5%	871 7.6%	217 1.9%	11441 100.0%

入試（本学実施の前期A B，後期およびセンター利用）」の比率は2004年度の49.5%から2010年度には34.7%と約15ポイント減少し，逆に，「推薦（公募・専門・総合）」が19.7%から32.5%へと12ポイント以上増加，「推薦（指定・評定特別）」も18.1%から24.4%へと6.3ポイント増加している。つまり近年，新入生の2/3程度は，入学年度の前年のうちに本学合格を決めていることになる。

表2. 入試制度別入学者比率

		入試制度					合計
		推薦（指 定，評定）	推薦（公募， 専門，総合）	AO	一般	スポーツ・ その他	
実施 年度	2004年度	307 18.1%	335 19.7%	86 5.1%	840 49.5%	130 7.7%	1698 100.0%
	2005年度	291 17.3%	377 22.4%	80 4.8%	787 46.8%	147 8.7%	1682 100.0%
	2006年度	295 18.1%	377 23.1%	80 4.9%	725 44.4%	157 9.6%	1634 100.0%
	2007年度	304 19.4%	352 22.5%	82 5.2%	634 40.5%	193 12.3%	1565 100.0%
	2008年度	415 25.0%	457 27.5%	84 5.1%	602 36.2%	104 6.3%	1662 100.0%
	2009年度	406 24.4%	493 29.6%	79 4.7%	607 36.4%	81 4.9%	1666 100.0%
	2010年度	369 24.4%	492 32.5%	49 3.2%	526 34.7%	79 5.2%	1515 100.0%
	合計	2387 20.9%	2883 25.2%	540 4.7%	4721 41.3%	891 7.8%	11422 100.0%

③出身高校所在地

出身高校所在地（設問7）をみると（表3），大阪府内の高校出身者が，2004年度の56.7%から2008年度に60%を超えた⁸⁾。なお，紙幅の都合上，中部，北陸は東日本にまとめ，中

国・四国と九州・沖縄も一つにした。かわりに、近畿地区の高校出身者を自宅・下宿で区分して集計した。傾向と言えるかは微妙だが、近畿地区の場合、下宿する入学者の比率が2004年度の7.5%から2009年度5.1%、2010年度5.5%と減少している。

表3. 出身高校所在地

		出身高校所在地					合計
		東日本(中部, 北陸含む)	大阪	近畿(自宅)	近畿(下宿)	中国・四国・九州・沖縄	
実施 年度	2004年度	61 3.6%	956 56.7%	345 20.5%	126 7.5%	199 11.8%	1687 100.0%
	2005年度	63 3.8%	914 54.7%	353 21.1%	114 6.8%	227 13.6%	1671 100.0%
	2006年度	54 3.3%	954 58.4%	299 18.3%	105 6.4%	222 13.6%	1634 100.0%
	2007年度	56 3.6%	900 57.9%	308 19.8%	104 6.7%	187 12.0%	1555 100.0%
	2008年度	63 3.8%	1035 62.8%	296 18.0%	109 6.6%	146 8.9%	1649 100.0%
	2009年度	45 2.7%	1019 61.5%	338 20.4%	84 5.1%	172 10.4%	1658 100.0%
	2010年度	35 2.3%	943 62.7%	283 18.8%	82 5.5%	161 10.7%	1504 100.0%
	合計	377 3.3%	6721 59.2%	2222 19.6%	724 6.4%	1314 11.6%	11358 100.0%

④あなたにとって高校教育とは

あなたにとって高校教育とは(設問8)と問いに対する回答では(表4)、2010年度では、「基礎教育を修得(基礎的・一般的学問, 教育を修得できた)」が30.8%で最も多く、ついで「対人関係をつくることができた」25.7%、「自己形成に役立った」19.5%と続く。経年変化をみると、2004年度には「基礎教育の修得」との回答比率は20.0%で3番目であったものが年々増加し、逆に2004年度には30.9%で最も多かった「対人関係をつくることができた」への回答比率が2007年度以降減少傾向にある。

3. 何を基準に、何を求めて入学してくるのか

(大学(本学)の選択理由・入学後の期待等(設問9-16))

①本学志望を決めた時期

本学志望を決めた時期(設問9)をみると(表5)、それほど強い傾向は読み取れないものの、2007年度までは高3二学期という回答が3割以上で最も多かったが、近年は高3一学期という回答が最も多くなっている。また、既卒者の減少を反映してか、2004年度には13.6%あった高校卒業後という回答は2006年度に10%を割り込み、近年は6.8%から8%程度で

8) 1995年度と2000年度新入生実態調査アンケート報告書を見ると、1995年度の大阪府下の高校出身者は40.4%であったものが、2000年度には55.1%になっている。トレンドしての大阪集中化も、90年代後半に進んだようである。

表4. あなたにとって高校教育とは

		高校教育とは						合計
		基礎教育を修得	自己形成に役立った	社会的視野開ける	対人関係をつくることができた	自主的な活動できる	その他(受験のみ, 自由行動できず)	
実施年度	2004年度	339 20.0%	371 21.9%	150 8.8%	524 30.9%	130 7.7%	181 10.7%	1695 100.0%
	2005年度	395 23.5%	306 18.2%	162 9.7%	530 31.6%	141 8.4%	144 8.6%	1678 100.0%
	2006年度	401 24.5%	314 19.2%	168 10.3%	490 30.0%	106 6.5%	156 9.5%	1635 100.0%
	2007年度	379 24.2%	341 21.8%	145 9.3%	459 29.3%	113 7.2%	129 8.2%	1566 100.0%
	2008年度	457 27.6%	349 21.0%	154 9.3%	452 27.3%	101 6.1%	145 8.7%	1658 100.0%
	2009年度	474 28.4%	314 18.8%	182 10.9%	435 26.1%	122 7.3%	140 8.4%	1667 100.0%
	2010年度	467 30.8%	295 19.5%	140 9.2%	390 25.7%	84 5.5%	139 9.2%	1515 100.0%
	合計	2912 25.5%	2290 20.1%	1101 9.6%	3280 28.7%	797 7.0%	1034 9.1%	11414 100.0%

表5. 本学志望をきめた時期

		本学志望決定時期					合計
		高2前半まで	高3一学期(含夏休み)	高3二学期	高3三学期	高校卒業後	
実施年度	2004年度	255 15.0%	465 27.4%	540 31.8%	206 12.1%	231 13.6%	1697 100.0%
	2005年度	253 15.1%	471 28.0%	552 32.9%	214 12.7%	190 11.3%	1680 100.0%
	2006年度	277 16.9%	455 27.8%	516 31.5%	245 15.0%	144 8.8%	1637 100.0%
	2007年度	230 14.7%	451 28.8%	543 34.7%	237 15.1%	106 6.8%	1567 100.0%
	2008年度	259 15.6%	569 34.3%	472 28.4%	225 13.5%	136 8.2%	1661 100.0%
	2009年度	265 15.9%	540 32.4%	512 30.7%	237 14.2%	114 6.8%	1668 100.0%
	2010年度	212 14.0%	480 31.7%	447 29.5%	254 16.8%	122 8.1%	1515 100.0%
	合計	1751 15.3%	3431 30.0%	3582 31.4%	1618 14.2%	1043 9.1%	11425 100.0%

推移している。

②本学志望に最も参考にしたもの

本学志望に最も参考にしたもの(設問10)は、2008年度に「キャンパス見学会」を加えたので、2004-2007年度と2008年度以降は別の表(表6-1, 表6-2)に示す。なお、「進学説明会(高校等)」「進学説明会(大学等)」「大学案内ビデオ」「高校等の作成資料」の4項目は、7年間合計でそれぞれ3.7%, 3.5%, 0%(5ケース), 3.1%と回答が少ないため

表6-1. 本学志望に最も参考にしたもの(2004-2007年度)

		本学志望に参考にしたもの						合計
		先生の勧め	家族・知人の勧め	受験雑誌	大学案内	本学HP	その他	
実施年度	2004年度	261 15.4%	295 17.4%	211 12.4%	337 19.8%	94 5.5%	500 29.4%	1698 100.0%
	2005年度	290 17.2%	323 19.2%	217 12.9%	312 18.5%	104 6.2%	438 26.0%	1684 100.0%
	2006年度	294 17.9%	321 19.6%	152 9.3%	294 17.9%	98 6.0%	480 29.3%	1639 100.0%
	2007年度	381 24.3%	303 19.3%	122 7.8%	293 18.7%	89 5.7%	379 24.2%	1567 100.0%
合計	1226 18.6%	1242 18.9%	702 10.7%	1236 18.8%	385 5.8%	1797 27.3%	6588 100.0%	

表6-2. 本学志望に最も参考にしたもの(2008-2010年度)

		本学志望に参考にしたもの						合計	
		先生の勧め	家族・知人の勧め	受験雑誌	大学案内	本学HP	その他		キャンパス見学会
実施年度	2008年度	389 23.4%	297 17.9%	109 6.6%	210 12.6%	88 5.3%	310 18.6%	260 15.6%	1663 100.0%
	2009年度	383 23.0%	279 16.7%	114 6.8%	190 11.4%	81 4.9%	348 20.9%	273 16.4%	1668 100.0%
	2010年度	351 23.2%	286 18.9%	85 5.6%	169 11.2%	87 5.7%	274 18.1%	262 17.3%	1514 100.0%
合計	1123 23.2%	862 17.8%	308 6.4%	569 11.7%	256 5.3%	932 19.2%	795 16.4%	4845 100.0%	

「その他」に併せて集計している。2004-2007年度では、「先生の勧め」が2004年度の15.4%から2007年度の24.3%へ9ポイント近く増加した一方、「受験雑誌」という回答は12.4%から7.8%へ4.6ポイント減少、「その他」も29.4%から24.2%へ5.2ポイントの減少が見られる。

2008年度以降の3年間では、「キャンパス見学会」を選択肢に加えてもなお、「先生の勧め」が23%台で最も多い。「キャンパス見学会」を選択肢に加えることで回答比率が減少した項目は、「大学案内」「その他」の2項目である。

次に2010年度に限定して、入試制度と本学志望に最も参考にしたものの関連をみたのが表7である。AOやスポーツ推薦等での入学者には「家族や知人の勧め」が「先生の勧め」よりも多い傾向がある。また、推薦入試での入学者では、「キャンパス見学会」という回答が24%以上で最も多く選択されているのに対して、一般入試での入学者は「キャンパス見学会」という回答が6.8%と少ない。

③最も参考にした受験雑誌等

表8は、最も参考にした受験雑誌等(設問11)の集計である。「特にない」という回答が2004年度の47.4%から毎年上昇して2010年度には63.2%と15.8ポイントも増加している。そのため「蛍雪時代」を除き、どの雑誌も回答比率が減少している。なお「日本ドリコムブック」「日経進学ブック」「学研マッチングブック」「君はどの大学を選ぶべきか」および2007

表7. 本学志望に最も参考にしたもの×入試制度 (2010年度)

		本学志望に参考にしたもの							合計
		先生の 勧め	家族・知 人の勧め	受験雑誌	大学案内	本学HP	その他	キャンパス 見学会	
入試 制度	推薦(指定, 評定)	93 25.2%	61 16.5%	12 3.3%	40 10.8%	16 4.3%	51 13.8%	96 26.0%	369 100.0%
	推薦(公募, 専門, 総合)	98 19.9%	88 17.9%	29 5.9%	50 10.2%	19 3.9%	90 18.3%	118 24.0%	492 100.0%
	AO	8 16.7%	15 31.3%	2 4.2%	2 4.2%	3 6.3%	11 22.9%	7 14.6%	48 100.0%
	一般	129 24.5%	95 18.1%	41 7.8%	73 13.9%	46 8.7%	106 20.2%	36 6.8%	526 100.0%
	スポーツ・ その他	23 29.1%	27 34.2%	1 1.3%	4 5.1%	3 3.8%	16 20.3%	5 6.3%	79 100.0%
合計		351 23.2%	286 18.9%	85 5.6%	169 11.2%	87 5.7%	274 18.1%	262 17.3%	1514 100.0%

表8. 最も参考にした受験雑誌等

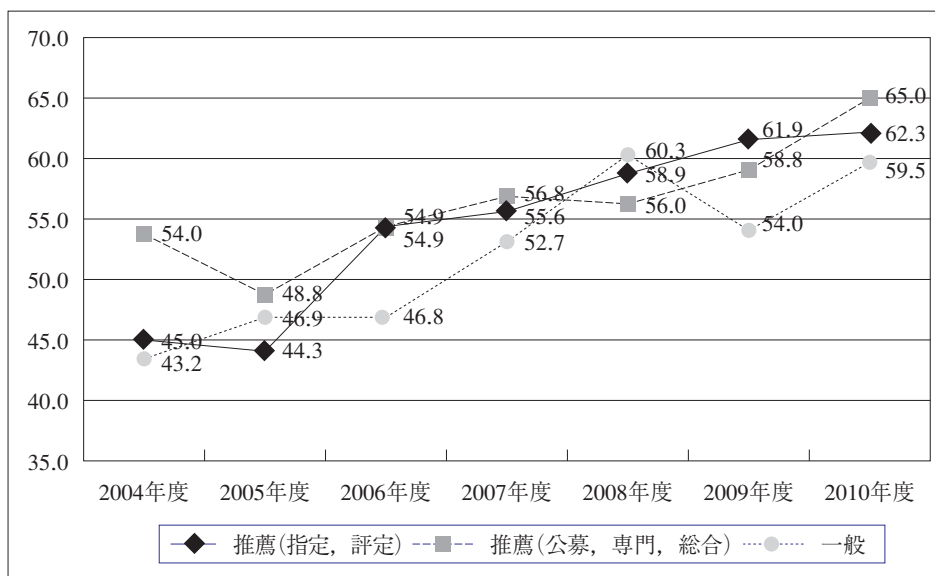
		参考にした受験雑誌					合計	
		リクルート ブック	進研 ブック	蛍雪時代	予備校発 行雑誌	その他		特にな い
実施 年度	2004年度	266 15.7%	230 13.5%	69 4.1%	152 8.9%	177 10.4%	805 47.4%	1699 100.0%
	2005年度	267 15.8%	229 13.6%	55 3.3%	120 7.1%	203 12.0%	811 48.1%	1685 100.0%
	2006年度	252 15.4%	171 10.4%	97 5.9%	92 5.6%	185 11.3%	841 51.3%	1638 100.0%
	2007年度	211 13.5%	171 10.9%	66 4.2%	65 4.1%	181 11.6%	873 55.7%	1567 100.0%
	2008年度	174 10.5%	152 9.1%	89 5.4%	67 4.0%	205 12.3%	975 58.7%	1662 100.0%
	2009年度	166 10.0%	151 9.1%	101 6.1%	72 4.3%	201 12.1%	974 58.5%	1665 100.0%
	2010年度	143 9.5%	125 8.3%	85 5.6%	52 3.4%	150 9.9%	954 63.2%	1509 100.0%
合計		1479 12.9%	1229 10.8%	562 4.9%	620 5.4%	1302 11.4%	6233 54.6%	11425 100.0%

年度まで選択肢にあった「進学浪漫」は、いずれも2%にも満たない回答比率であったため「その他」に併せて集計した。

「特にない」の比率上昇の理由はなんだろうか。推薦での入学者の増加によるものとも考えられるため、主な入試制度別で、「特にない」の比率を年度ごとに示したのがグラフ1である。デコボコはあるものの、どの入試制度も右上がりの傾向にある。受験雑誌離れは、必ずしも入試制度によるものではなく、全新生に共通の傾向のようである。

④大学を選ぶ際の基準

大学を選ぶ際の基準(設問12)は、2008年度に「就職への有利さ」を加えているので、2004-2007年度と2008年度以降は別の表(表9-1, 表9-2)に示す。なお「学費・奨学金」



グラフ1. 入試制度別, 参考にした受験雑誌が「特にない」の比率の変化

表9-1. 大学選択基準 (2004-2007年度)

実施年度	大学選択基準								合計
	学習内容	クラブ活動	地理的条件	資格取得	施設・設備	偏差値	その他		
2004年度	448 26.4%	71 4.2%	225 13.3%	168 9.9%	176 10.4%	411 24.2%	199 11.7%	1698 100.0%	
2005年度	479 28.4%	90 5.3%	236 14.0%	137 8.1%	160 9.5%	385 22.8%	199 11.8%	1686 100.0%	
2006年度	448 27.3%	117 7.1%	220 13.4%	162 9.9%	148 9.0%	348 21.2%	196 12.0%	1639 100.0%	
2007年度	405 25.9%	111 7.1%	220 14.1%	154 9.8%	150 9.6%	319 20.4%	206 13.2%	1565 100.0%	
合計	1780 27.0%	389 5.9%	901 13.7%	621 9.4%	634 9.6%	1463 22.2%	800 12.1%	6588 100.0%	

表9-2. 大学選択基準 (2008-2010年度)

実施年度	大学選択基準								
	学習内容	クラブ活動	地理的条件	資格取得	施設・設備	偏差値	その他	就職の有利さ	合計
2008年度	395 23.8%	109 6.6%	188 11.3%	109 6.6%	180 10.8%	304 18.3%	160 9.6%	218 13.1%	1663 100.0%
2009年度	399 23.9%	102 6.1%	177 10.6%	123 7.4%	132 7.9%	359 21.5%	151 9.1%	224 13.4%	1667 100.0%
2010年度	372 24.6%	90 6.0%	155 10.3%	108 7.1%	89 5.9%	298 19.7%	167 11.0%	233 15.4%	1512 100.0%
合計	1166 24.1%	301 6.2%	520 10.7%	340 7.0%	401 8.3%	961 19.8%	478 9.9%	675 13.9%	4842 100.0%

表10. 本学を志望した理由

		本学志望理由3								合計
		校風が気に入った	外国語教育	学部の内容が希望に合う	施設・設備の充実	就職に有利	地理的条件に合う	その他	他大学が不合格	
実施年度	2004年度	371 21.8%	112 6.6%	350 20.6%	296 17.4%	16 0.9%	125 7.4%	110 6.5%	318 18.7%	1698 100.0%
	2005年度	381 22.6%	118 7.0%	366 21.7%	252 15.0%	21 1.2%	125 7.4%	120 7.1%	300 17.8%	1683 100.0%
	2006年度	348 21.2%	154 9.4%	339 20.7%	228 13.9%	36 2.2%	114 7.0%	132 8.1%	288 17.6%	1639 100.0%
	2007年度	280 17.9%	152 9.7%	320 20.4%	230 14.7%	38 2.4%	108 6.9%	159 10.1%	280 17.9%	1567 100.0%
	2008年度	246 14.8%	158 9.5%	327 19.7%	215 12.9%	86 5.2%	151 9.1%	174 10.5%	305 18.4%	1662 100.0%
	2009年度	261 15.7%	152 9.1%	338 20.3%	189 11.3%	82 4.9%	152 9.1%	162 9.7%	331 19.9%	1667 100.0%
	2010年度	233 15.4%	141 9.3%	306 20.2%	168 11.1%	100 6.6%	118 7.8%	125 8.3%	321 21.2%	1512 100.0%
	合計	2120 18.6%	987 8.6%	2346 20.5%	1578 13.8%	379 3.3%	893 7.8%	982 8.6%	2143 18.8%	11428 100.0%

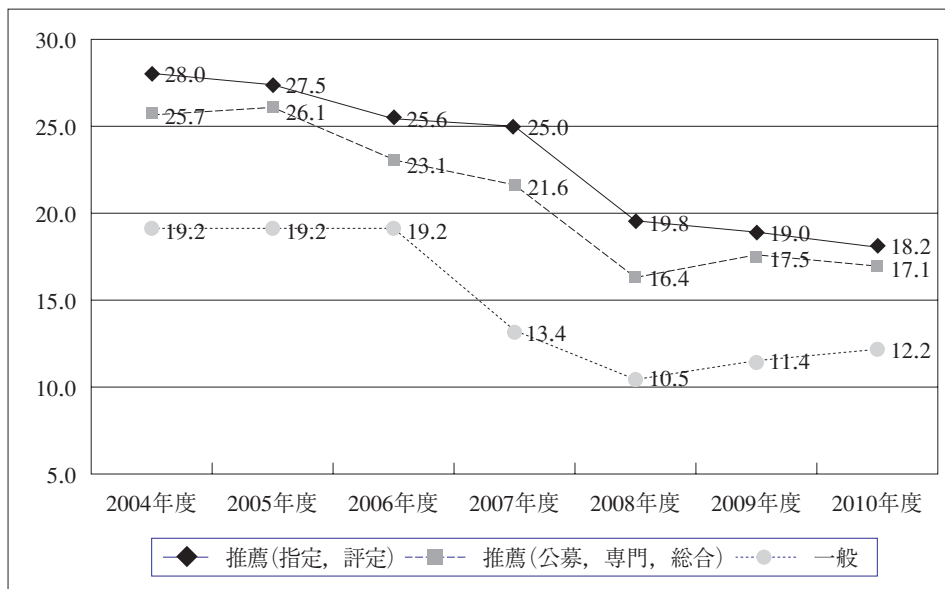
「留学制度」の2項目は7年間合計でそれぞれ1.1%、3.1%と回答比率が少ないため「その他」に併せて集計した。なお2007年度までは「奨学金等援助制度」という項目があったが、4年間の合計で0.5%であったためこれも「その他」に併せて集計した。2004-2007年度では、「偏差値」という回答が24.2%から20.4%へと減少したほかは、それほど大きな傾向性はつかめない。2008年度以降の3年間に限ってみても、傾向としてはそれほど大きな変化は見られない。2010年度でみると、「学習内容」が24.6%で最も多く、「偏差値」19.7%、「就職の有利さ」15.4%、「地理的条件」10.3%とつづいている。

なお、表は略すが、入試制度別にみると、当然ながら「スポーツ・その他」では「クラブ活動」の比率が高く、「一般入試」では「偏差値」の比率が高いなど、入試制度ごとで選択されやすい項目は異なる。入試施策等を考えるためには、入試制度ごとの分析も必要であろう。

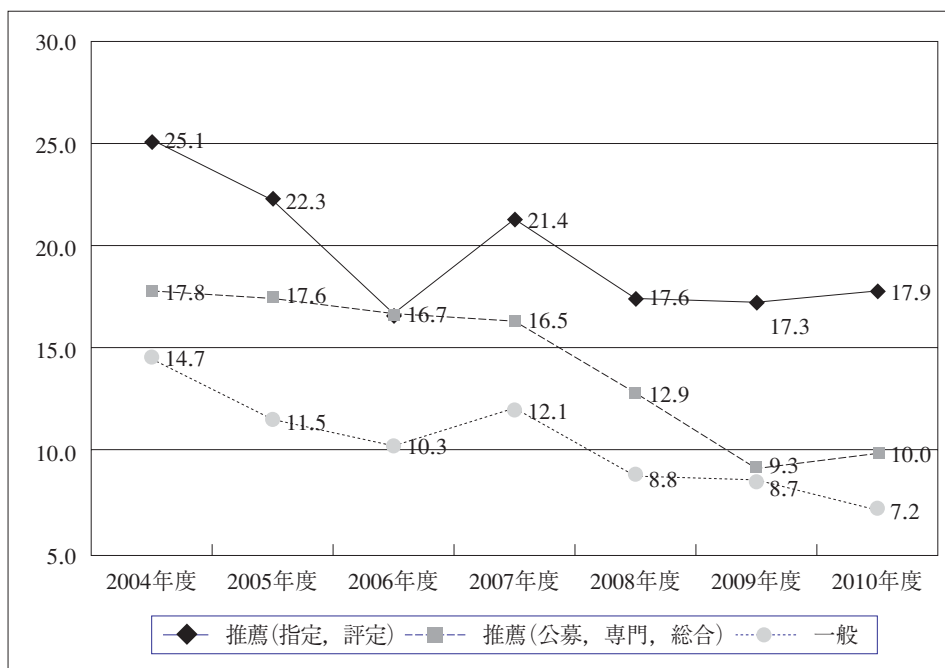
⑤本学を志望した理由

本学を志望した理由（設問13）について（表10）、2010年度をみると、「他大学が不合格」が21.2%で最も多く、「学部の内容が希望に合う」20.2%、「校風が気に入った」15.4%、「施設・設備の充実」11.1%とつづいている。なお、「キリスト教系の大学」「先輩が在学」「クラブ活動に興味」の3項目は、7年間合計でそれぞれ1.2%、2.7%、4.8%と少数であったため「その他」に併せて集計した。

経年変化をみると、2004年度には21.8%で最も多かった「校風が気に入った」という回答比率が、2010年には6.4ポイント減少、同じく17.4%あった「施設・設備の充実」が6.3ポイ



グラフ2. 入試制度別, 本学志望理由のうち「校風が気に入った」の比率の変化



グラフ3. 入試制度別, 本学志望理由のうち「施設・設備の充実」の比率の変化

ント減少している。そして実数としては少ないが「就職に有利」という回答が2004年度には0.9%にすぎなかったものが2010年度の6.6%へと増加している。

当然のことながら, 入試制度によって, 本学を志望した理由の回答比率は異なっている。

表11. 大学入学の目的

		大学入学目的					合計
		専門的知識 や高度な技術 の修得	教養を身 につける	資格取得や 有利な就職	学生生活 を楽しむ	その他	
実施 年度	2004年度	297 17.5%	260 15.3%	658 38.8%	278 16.4%	204 12.0%	1697 100.0%
	2005年度	280 16.6%	272 16.2%	648 38.5%	284 16.9%	199 11.8%	1683 100.0%
	2006年度	271 16.5%	260 15.9%	661 40.3%	265 16.2%	183 11.2%	1640 100.0%
	2007年度	201 12.8%	245 15.6%	666 42.5%	243 15.5%	212 13.5%	1567 100.0%
	2008年度	213 12.8%	293 17.6%	675 40.6%	277 16.7%	205 12.3%	1663 100.0%
	2009年度	220 13.2%	277 16.6%	701 42.0%	259 15.5%	212 12.7%	1669 100.0%
	2010年度	195 12.9%	229 15.1%	655 43.2%	209 13.8%	227 15.0%	1515 100.0%
	合計	1677 14.7%	1836 16.1%	4664 40.8%	1815 15.9%	1442 12.6%	11434 100.0%

たとえば、「推薦（公募，専門，総合）」「一般入試」など筆記試験を受けての入学者では「他大学を不合格」との回答が多く、7年間合計でそれぞれ17.2%、32.9%にのぼる（表は略すがやや気になる傾向として、一般入試での入学者では「他大学が不合格」の比率が、2004年度30.1%、2005年度28.4%であったが、近年上昇傾向にあり2010年度は39.0%となっている）。

それでは経年変化で、全体としては減少傾向のみられた「校風が気に入った」「施設・設備の充実」は、入試制度別にみるとどのような傾向を示すのだろうか。グラフ2は、入試制度別に「校風が気に入った」の比率の経年変化を示したものである。回答比率が推薦での入学者に多く、一般入試での入学者に少ないことは変わらないが、どの制度でも、2007、2008年度の入学者で回答比率が減少している。また、「施設・設備の充実」について同様に示したグラフ3では、「推薦（公募，専門，総合）」「一般入試」でほぼ一貫して減少傾向にあることがわかる。

なお、表は略すが、学部学科別では、社会福祉学科では「学部の内容が希望に合う」が多く、国際教養学部では「外国語教育」が多いなど、学部学科によって志望理由には差異があり、より厳密に傾向を検討するためには学部学科ごとでの分析が必要である。

⑥大学入学の目的

大学入学の目的（設問14）では（表11）、7年間合計で「資格取得や有利な就職」が40.8%で最も多く、ついで「教養を身につける」16.1%、「専門的知識や高度な技術の修得」14.7%、「学生生活を楽しむ」15.9%となっている。なお、「真理の探究」「大卒学歴」「課外活動」

表12. 大学生生活イメージ

		大学生生活イメージ					合計
		専門的な勉強	友人をたくさんつくれそう	課外活動	やりたいことが何でもできそう	その他	
実施年度	2004年度	593 34.9%	296 17.4%	60 3.5%	576 33.9%	173 10.2%	1698 100.0%
	2005年度	553 32.9%	287 17.1%	74 4.4%	602 35.8%	166 9.9%	1682 100.0%
	2006年度	545 33.3%	289 17.6%	104 6.3%	520 31.7%	181 11.0%	1639 100.0%
	2007年度	471 30.1%	305 19.5%	92 5.9%	515 32.9%	184 11.7%	1567 100.0%
	2008年度	564 34.0%	297 17.9%	106 6.4%	537 32.3%	157 9.5%	1661 100.0%
	2009年度	515 30.9%	353 21.2%	85 5.1%	545 32.7%	171 10.2%	1669 100.0%
	2010年度	474 31.3%	312 20.6%	87 5.8%	449 29.7%	191 12.6%	1513 100.0%
合計		3715 32.5%	2139 18.7%	608 5.3%	3744 32.8%	1223 10.7%	11429 100.0%

「友達づくり」「特にない」はそれぞれ3.3%，4.2%，0.8%，1.8%，1.0%と少数であったため「その他」に併せて集計した。経年変化をみると、「資格取得や有利な就職」が38.8%から43.2%へ4.4ポイント増加し、「専門的知識や高度な技術の修得」が17.5%から12.9%へと4.6ポイント減少している。

⑦大学生生活イメージ

大学生活のイメージ（設問16）では（表12），7年間合計で「やりたいことが何でもできそう」32.3%，「専門的な勉強」32.5%でこの2項目がどの年度でも1，2位となり，ついで「友人をたくさんつくれそう」18.7%となっている。なお，「アルバイト」「特にない」はそれぞれ2.1%，4.3%と少数であったので「その他」に併せて集計した。経年変化に関しては，各年度で多少のデコボコはあるものの，はっきりとした傾向は読み取れない。

⑧本学への希望

本学に対する希望（期待）（設問16）について（表13），まず7年間合計をみると，「就職に役立つ教育」が52.0%で最も多く，「学力の向上」21.3%，「自主性の尊重」11.1%，「留年せず卒業」10.9%と続く。なお，「特にない」は7年間合計で2.7%と少数であったので「その他」と併せて集計した。経年変化をみると，順位に変動はないが，「就職に役立つ教育」が5.2ポイント，「留年せず卒業」が5.8ポイント増加し，逆に「学力の向上」3ポイント，「自主性の尊重」6.3ポイント減少している。

表13. 本学への希望

		本学に対する希望					合計
		学力向上	就職に役立つ教育	自主性の尊重	留年せず卒業	その他	
実施年度	2004年度	374 22.1%	850 50.1%	252 14.9%	129 7.6%	91 5.4%	1696 100.0%
	2005年度	372 22.1%	855 50.9%	215 12.8%	149 8.9%	89 5.3%	1680 100.0%
	2006年度	387 23.6%	858 52.4%	171 10.4%	141 8.6%	81 4.9%	1638 100.0%
	2007年度	354 22.6%	804 51.3%	146 9.3%	174 11.1%	88 5.6%	1566 100.0%
	2008年度	336 20.2%	845 50.8%	174 10.5%	232 14.0%	76 4.6%	1663 100.0%
	2009年度	318 19.1%	889 53.3%	175 10.5%	216 12.9%	70 4.2%	1668 100.0%
	2010年度	290 19.1%	838 55.3%	131 8.6%	203 13.4%	53 3.5%	1515 100.0%
	合計	2431 21.3%	5939 52.0%	1264 11.1%	1244 10.9%	548 4.8%	11426 100.0%

4. 今後に向けて

以上、大雑把ではあるが、2004－2010年度の新入生実態アンケート調査における設問1－16（「フェイス」および「大学（本学）の選択理由・入学後の期待等」）について、主に経年変化について概観してきた。

比較的是っきりした傾向としては、入試制度別入学者の比率が、一般入試から推薦入試へとシフトしてきたことのほか、受験雑誌離れが指摘できる。受験雑誌離れは、入試制度に関係なくおこっている。この要因としては、ネット上のサイトの充実等が考えられるが、関連して気になる傾向として、本学志望に参考にしたものという設問における「受験雑誌」の減少と、「先生の勧め」の増加もあげておきたい。断定はできないが、広く情報を集めるよりも、先生の勧めに従う素直な新入生の増加という可能性もあるのではないだろうか。

はっきりした傾向とまでは言えないが、気になる傾向として、高校教育とはという設問における「基礎教育を修得」という回答の増加や、本学志望理由で「校風が気に入った」「施設・設備の充実」という回答が減少し、「就職に有利」という回答が増加していることなどがある。また、大学入学目的に関する「資格取得や有利な就職」の増加、「専門的知識や高度な技術の修得」の減少、あるいは本学への希望として「就職に役立つ教育」「留年せず卒業」の増加、「学力の向上」「自主性の尊重」の減少も気になる。就職や卒業など、近視眼的な目標を意識するばかりで、大学で学ぶことの価値を理解していない新入生が増加しているのであれば、それこそ大学の生命線にかかわる大問題となるのではないだろうか⁹⁾。

9) 竹内清は、大学を設立年、偏差値などから伝統総合大学、中堅大学、新興大学Ⅰ、新興大学Ⅱに4区分し、学生が大学に求める教育内容が、伝統総合大学では「好きなこと、知的刺激」を求めるのに

いささか筆が滑りすぎたようだ。結論を急いではいけない。今回は概観の報告に過ぎない。学部別の動向や、他大学との比較等さらに慎重な検討が必要である。また、選択肢やワーディングを変えれば結果も変わるかも知れない。より大切なのはデータを分析する我々の視点である。「傾向」をどのように考えるか、変化の大きさの基準をどの辺に求めるべきか、結局は我々の分析視点にかかっている。そして、そもそも変わったのは、学生なのか我々なのかという検討も必要ではないだろうか。大学のほうが「就職全力支援主義」と打ち出したりもするのだから、新入生が就職をはじめとする近視眼的な選択肢を選択することは当然のことかも知れない。

繰り返しになるが、この小論はデータ活用の呼び水になることが最大の目的である。今後に向けて、ぜひ「このような分析はできないか」というリクエストや、データそのものを直接分析してみたいという希望が寄せられることを期待している。

参 考 文 献

- 大谷信介（編著），2002，『これでいいのか市民意識調査 大阪府44市町村の実態が語る課題と展望』ミネルヴァ書房。
- 大橋英五，2010，「私立大学の課題」日本私立大学連盟『大学時報』No.331，10-15ページ。
- 竹内 清，2008，「学生の視点からの学士課程教育」『IDE 現代の高等教育』No.498，10-15ページ。
- 本学学務課，1995年度新入生実態調査アンケート報告書
- 本学学務課，2000年度新入生実態調査アンケート報告書

対して、設立年も新しく、偏差値も低い新興大学ほど、「社会で役立つ知識、技術」を求める傾向があることを指摘している（竹内，2008）。

2010年度 新入生実態アンケート

新入生の皆さんの実態を把握し、今後の大学運営に役立てるため、アンケートを実施いたします。
 選びにくい場合でも、必ず1つの設問に1つずつ回答を選び、別紙マークシートにご記入いただきますようお願いいたします。

設問	1	2	3	4
----	---	---	---	---

フェイス

1 所属する学部・学科	1 経済学部 経済学科	2 社会学部 社会学科	3 社会学部 社会福祉学科	4 経営学部 経営学科
2 性別	1 男性	2 女性		
3 出身高校	1 国立	2 都道府県立	3 市立	4 私立
4 入試制度	推薦入学 (指定校制・評定特別)	推薦入学(公募制・ 専門学科・総合学科 選抜)	3 推薦入学(スポーツ)	4 AO入試
5 現役・既卒・留学生	1 現役	2 既卒(1年)	3 既卒(2年以上)	4 留学生
6 高校での課程 (近いものを選択)	1 普通科	2 英語科	3 理数科	4 商業科
7 出身高校所在地	1 東日本(含北海道)	2 中部(含新潟)	3 北陸	4 大阪
8 あなたにとって高校教育とは？	1 基礎的・一般的学問、 教育を修得できた	2 自己形成に役立った	3 社会的視野を開くこ とができた	4 対人関係をつくるこ とができた

大学(本学)の選択理由・入学後の期待等

9 本学志望を決めた時期	1 高校1年生	2 高校2年生 前半	3 高校2年生 後半	4 高校3年生 1学期 (夏休み含む)
10 本学志望に最も参考にしたもの	1 先生(高校・予備校) の勧め	2 家族や知人の勧め	3 高校、予備校での 進学説明会	4 大学展などの 進学説明会
11 最も参考にした受験雑誌等	1 リクルートブック	2 進研ブック	3 日本ドリコムブック	4 蛭雪時代
12 大学を選ぶ際の基準 (本学に限らない)	1 学習(カリキュラム) 内容	2 クラブ活動	3 地理的条件(通学時 間、下宿環境)	4 学費・奨学金
13 本学を志望した理由	1 キリスト教系の大学	2 校風が気に入った	3 外国語が十分学べる	4 学部の内容が希望に 合う
14 大学入学の目的	1 学問研究を通じ真理 を探究する	2 専門的知識・高度な 技術を修得する	3 豊かな教養を身につ け、人格を陶冶する	4 資格取得や、将来の 有利な就職を目指す
15 大学生活のイメージ	1 専門的な勉強ができ そう	2 友人をたくさん作れ そう	3 課外活動(クラブ等) に打ちこめそう	4 アルバイトがたくさ んできそう
16 本学に対する希望 (期待)	1 学力(専門知識や語 学力等)の向上	2 就職に役立つ教育 (資格の取得等)	3 個人の自主性の尊重	4 留年せず4年で卒業

学業等

17 本学で取得したい資格課程	1 教育職員養成課程	2 司書課程	3 司書教諭課程	4 博物館学芸員課程
18 卒業後の希望進路	1 民間企業	2 国家公務員	3 地方公務員	4 教員
19 進路のために身につけたい もの	1 専門知識	2 語学力	3 情報処理技術	4 資格取得
20 英会話力について	1 討論等で自分の意見 が述べられる	2 日常会話程度	3 自己紹介や挨拶程度	4 ほとんどできないが、 今後身につけたい
21 英語の経験	1 英語圏へ留学または 住んでいたことがある (3ヶ月以上)	2 英語圏へ留学または 住んでいたことがある (3ヶ月未満)	3 英語圏へ海外旅行を したことがある	4 英会話スクールに通 ったことがある
22 大学でどんな英語の授業を 受けていますか。	1 積極的なコミュニケ ーション力が身につく 授業	2 英文作成・読解力が 身に付く授業	3 言語や文化に関する 理解が深まる授業	4 外国の事情を紹介す る授業
23 卒業までにどのくらいの英 語力を身につけたいと思 いますか。	1 英語で仕事ができる 程度	2 英字新聞を読める程 度	3 外国人と日常会話が できる程度	4 外国人に挨拶や道案 内ができる程度
24 英語以外に学びたい外国語	1 フランス語	2 ドイツ語	3 スペイン語	4 イタリア語

課外活動(クラブ・ボランティア)

25 高校時の所属クラブ	1 体育系クラブ	2 文化系クラブ	3 生徒会等	4 その他
26 高校時のクラブ活動は？	1 人格形成に役立った	2 技術・教養を高める ことができた	3 よい友達をつくるこ とができた	4 勉強の合間の息抜き だった
27 本学で加入予定のクラブ・ サークル活動	1 体育系クラブ	2 文化系クラブ	3 サークル	4 まだ考えていない
28 どのようなボランティア活 動に参加したことがあります か	1 障害児・者関係	2 高齢者関係	3 医療・保健関係	4 災害援助関係

5	6	7	8	9	10
5 国際教養学部 国際教養学科	6 法学部 法律学科				
5 大検	6 その他				
5 一般入試前期A日程	6 一般入試前期B日程 B日程+1	7 一般入試前期 センター利用方式	8 一般入試 後期日程	9 一般入試後期 センター利用方式	10 その他
5 工業科	6 総合学科	7 国際科	8 体育科	9 その他	
5 近畿(含三重)	6 中国	7 四国	8 九州(含沖縄)	9 その他	
5 受験勉強だけだった	6 自主的・創造的な 活動ができた	7 自由な行動ができ なかった	8 その他		

5 高校3年生 2学期	6 高校3年生 3学期	7 高校卒業後			
5 受験雑誌	6 本学作成の大学 案内	7 本学ホームページ	8 キャンパス見学会 (オープンキャン パス)	9 高校・予備校 作成の資料	10 その他
5 日経進学ブック	6 学研マッチング ブック	7 君はどの大学を 選ぶべきか	8 予備校発行雑誌	9 その他	10 特にない
5 就職への有利さ	6 留学制度	7 資格取得	8 施設・設備	9 偏差値	10 その他
5 施設・設備の充実	6 先輩が在学してい る	7 就職に有利	8 地理的条件が合う	9 クラブ活動に 興味がある	10 他大学を不合格に なった
5 「大卒」の学歴が ほしい	6 課外活動を自由に する	7 学生生活を楽しむ	8 友達をつくる	9 その他	10 特にない
5 やりたいことが何 でもできそう	6 その他	7 特にない			
5 その他	6 特にない				

5 社会福祉士 受験資格課程	6 精神保健福祉士 受験資格課程	7 社会調査士資格	8 日本語教員資格	9 特にない	
5 社会福祉関係	6 各種団体	7 家業を継ぐ	8 自由業	9 進学	10 まだ考えていない
5 コミュニケーショ ン能力	6 問題発見解決能力 (論理的思考力)	7 その他	8 特にない		
5 ほとんどできない が、それでよい					
5 学校の授業のみ					
5 物語をたくさん読 み、感想を述べ合 う授業					
5 英語力を身につけ たいと思わない					
5 ロシア語	6 インドネシア語	7 中国語	8 朝鮮語	9 その他	10 特にない

5 不参加		
5 無意味だった	6 その他	7 不参加だったので、 わからない
5 加入しない		
5 地域活性化関係	6 その他	7 参加したことが ない

設問	1	2	3	4
----	---	---	---	---

経済・生活状況

29 主な学費納入手段	1 家庭から	2 アルバイト代	3 奨学金	4 教育ローン
30 本学での奨学金について	1 よく知っている	2 関心はあるが、よくわからない	3 関心はあるが、親に任せている	4 関心はなく、ほとんど知らない
31 奨学金の必要度	1 必ず受けたい	2 希望するが、受けられない場合は仕方ない	3 別に考えていない	4 受ける必要がない
32 主たる家計支持者の年収(税込)	1 400万円未満	2 400万円以上600万円未満	3 600万円以上800万円未満	4 800万円以上1000万円未満
33 入学後の住居	1 自宅	2 下宿(本学紹介物件)	3 下宿(一般のマンション・アパート・文化住宅)	4 親戚・知人宅
34 アルバイトの目的と必要度	1 学費と生活費のため	2 学費のため	3 生活費のため	4 クラブ活動等のため

悩み・健康

35 現在の関心事	1 学問研究	2 クラブ・サークル活動(体育系)	3 クラブ・サークル活動(文化系)	4 社会的諸問題
36 現在の悩み事	1 勉学のこと	2 健康や性格・能力	3 人生観	4 就職・将来の進路
37 困ったとき、悩んだ時の相談相手	1 友人	2 親	3 兄弟姉妹	4 先生
38 日頃の健康について	1 健康	2 おおむね健康	3 消化器系統(胃・腸・肝臓など)が弱い	4 呼吸器系統(喉・気管・肺など)が弱い
39 健康についての気遣い	1 非常に気を付けている	2 少し気を付けている	3 普通	4 あまり気にしない
40 飲酒について	1 飲めない・飲まない	2 たまに飲む	3 毎日のように飲む	
41 喫煙について(1日の量)	1 吸わない	2 5本未満	3 5本以上10本未満	4 10本以上20本未満
42 嫌煙について	1 隣で喫煙されても不快ではない	2 隣で喫煙されると不快だ		
43 睡眠時間について	1 3時間未満	2 3時間以上4時間未満	3 4時間以上5時間未満	4 5時間以上6時間未満
44 食生活について	1 3食決まった時間にきちんと食べる	2 3食食べるが、時間は不規則	3 朝食を食べないことがある	4 朝食はほとんど食べない
45 朝食を食べないことがある場合の理由	1 時間がない	2 食欲がない	3 経済的理由	4 ダイエットのため
46 ダイエット経験	1 ダイエット中	2 過去に経験がある	3 経験がない	

読書等

47 公共図書館の利用頻度	1 月4回以上	2 月に2~3回	3 月に1回	4 たまに利用する
48 読書に要する費用(1ヶ月)	1 千円未満	2 千円以上2千円未満	3 2千円以上3千円未満	4 3千円以上4千円未満
49 読書量について	1 月に5冊以上	2 月に3~4冊	3 月に1~2冊	4 2ヶ月に1冊
50 1日あたりの読書時間	1 7時間以上	2 5~6時間	3 3~4時間	4 1~2時間

情報関連

51 パソコン保有状況	1 自分用がある	2 家族と共用で、自分用がほしい	3 家族と共用で、自分用はいらない	4 所有する予定
52 ワープロ習得状況	1 早く打てる	2 普通に打てる	3 ゆっくり打てる	4 打てない
53 パソコンの主な利用目的	1 ワープロ	2 E-メール	3 インターネット(ホームページ)	4 ゲーム
54 インターネット利用頻度	1 ほぼ毎日	2 時々	3 利用していない	
55 所有している携帯電話キャリア	1 NTTドコモ	2 ソフトバンクモバイル	3 au	4 2つ以上持っている
56 本学ホームページについて	1 見たことがある	2 見たことがない		

5	6	7	8	9	10
5 銀行借り入れ	6 親戚等の援助	7 その他			
5 1000万円以上 1500万円未満	6 1500万円以上				
5 その他					
5 旅行・レジャー費	6 特に必要ではない が、よいのがあればやる	7 考えていない			
5 芸術・演芸	6 卒業後の進路	7 お金儲け	8 交友関係	9 その他	10 特にな
5 友達のこと	6 異性のこと	7 家族・家庭内のこと	8 学費・家計などの 経済的な問題	9 その他	10 特にな
5 カウンセラー等の 専門家	6 その他	7 相談する人がいな い	8 誰にも相談したく ない		
5 循環器系統（腎臓 など）が弱い	6 肩こり・腰痛	7 不安感・イライラ 感・孤独感がある	8 その他 調子が良 くない		
5 全く気にしない					
5 20本以上					
5 6時間以上7時間 未満	6 7時間以上				
5 当てはまるものが ない					
5 食べたり作ったり が面倒	6 その他	7 きちんと食べるの で当てはまらない			
5 ほとんど利用しな い	6 利用したことがな い				
5 4千円以上5千円 未満	6 5千円以上1万円 未満	7 1万円以上			
5 3～4ヶ月に1冊	6 半年に1冊	7 読まない			
5 1時間まで	6 ほとんど読まない	7 まったく読まない			
5 所有する予定はな い					
5 その他					
5 その他	6 携帯電話を持って いない				

ご協力ありがとうございました。

An Analysis of Survey Data on First Year Students in our University (1)

Eiji KINOSHITA

Our university has gathered some excellent data on our students. One purpose of our project is the reuse and reconsideration of this data. In this paper, we report some results of reanalysis of the survey data about first year students in our university. This survey is taken every year and covers all freshmen, so its data is useful for investigating changes among our students.

We plan to report the ongoing results of this data analysis several more times. We hope our study will be helpful for our faculties and sections and for developing educational skills and services for our students.